



本邦人口中ニ於ケル男子超過ニ就テ(2)

高野, 岩三郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 18(5):787-806

(Issue Date)

1915-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052364>



本邦人口中ニ於ケル男子超過ニ就テ (其二)

東京法科大學教授

法學博士 高野岩三郎

六

次ニ前節ニ述タル男子超過ノ著シキ地方ト正ニ反對ノ地位ニ立ツ所ノモノハ女子超過ノ特ニ甚ダシキ地方ナリ其ノ代表トシテハ滋賀及熊本ノ二縣ヲ推スベシ今此ノ兩地方ニ就キ其ノ由來ヲ探ランニ。

一 滋賀縣

滋賀縣ノ人口中ニ於テ從來常ニ少カラズ女子ノ超過ヲ示シ女百ニ對シ男九五・六ノ比ナリ。

・註 本文ニ於ケル人口數ハ總テ現住人口或ハ所謂甲種現住人口ヲ探リ所謂乙種現住人口ヲ探ラズ此點ニ關スル可否論ハ有ルベキモ論議ヲ省ク唯讀者其ノ心シテ數字ノ判斷ヲ誤マラザランコトヲ乞フ。

女百ニ付男	明治三十一年	同	三十六年	同	四十一年	大正二年
滋賀縣	九五・六三		九六・五八		九五・〇三	九五・二四

之ヲ下掲(9)表ニ依テ見ルニ明治三十二年乃至同四十一年ノ十年間ニ在テ男子ノ出生ハ女子ヨリモ多クシテ然モ又其ノ死亡ハ大阪府ノ如ク女子ヨリモ少ナク而シテ兩者ノ差引上男子ノ方人口ニ殘ルコトノ多キ九千餘人ナリ、則チ滋賀縣ノ人口ハ出生死亡ノ關係ヨリシテハ男子超過ヲ呈スベキノ理ナリ、然ルニ他方來住往往ノ關係ヲ觀ルトキハ一種ノ變態的數字現ハル蓋シ明治三十一年末ト同四十年末ノ數字トヲ比較スレバ同縣ノ男子人口ハ増加セズシテ却テ一千餘人ヲ減少シ反之女子人口ハ増加シタレドモ僅ニ一千人ニ滿タズ若シ此ノ數字ニシテ誤ナシト假定セバ結局出生死亡ノ關係ヨリ生ジタル男子人口ノ増加モ女子人口ノ増加モ共ニ消失シテ男子モ女子モ均シク來住ノ關係ヨリシテハ各自其ノ人口ヲ失フ然ルニ此ノ點ニ於テ男子ノ方ハ女子ヨリモ其數一層多ク且出生死亡ノ點ヨリ來ル男子超過數ニ超ルガ故ニ同縣ノ人口ハ女子超過ヲ示スコト、ナルナリ、約言スレバ滋賀縣ニ在テハ男子モ女子モ共ニ盛ニ他地方ニ流出シ唯男子ノ方一層多クシテ同縣ノ人口ハ女子超過スト認ムベキニ似タリ。

明治三十二年乃至同四十一年

滋賀縣

	男	女	女百ニ付男
生 産	111,085	106,041	104.46
死 亡	73,891	78,729	93.85

出 生	37,194	27,612	:男+ 9,582
人 口 増 減	- 1,224	+ 988	

假定移住超過(一)

- 38,418 - 26,624 :男- 11,784

二熊、本縣

熊本縣ノ人口ハ亦常ニ女子超過ヲ呈スルコト滋賀縣ト同ジ唯ダ彼ニ在テハ女子超過ノ程度左シタル變化ナキニ此ニ在テハ超過ノ程度ヲ加フルノ傾アリ。

女百ニ付男

明治三十一年

同 三十六年

同 四十一年

大正 二年

熊 本 縣

九七・七四

九六・三四

九五・三四

九五・八七

而シテ同縣ニ於ケル少カラザル女子超過ハ如何ニシテ來ルカト云フニ下記(10)表ノ示スガ如ク出生死亡ノ關係ヨリシテハ女子ヨリモ男子多ク人口ニ加ハレドモ他ノ一方ニ於テ來住移住ノ點ヨリシテハ男子モ女子モ共ニ其ノ人口ヲ失フコトハ滋賀縣ニ異ラズ唯彼ノ如クニ甚ダシク女子人口ヲ失ナフコト無ク從テ比較

的ニ男子人口ヲ失ナフコト遙カニ多ク其數又出生死亡ノ點ヨリ生シタル男子ノ超過數ニ超エ其結果ハ從來熊本縣ノ人口ニ於ケル女子ノ超過ヲ雷ニ依然トシテ繼續シタルノミナラズ更ニ又其割合ヲ増シタルナリ惟フニ滋賀縣ハ寧ロ主トシテ其ノ近隣地方ニ向ツテ謂ハバ内地向人口輸出ヲ試ムルモノナルニ反シ熊本縣ハ遠ク臺灣乃至米國等ニ向ツテ外國向人口輸出ノ地方トシテ知ラル爰ニ舉ゲタル事實ハ亦克ク此ノ現象ノ反映ト解シ得ベキガ如シ。

(10) 表

明治三十二年乃至同四十一年

熊 本 縣		男		女		女百ニ付男	
生	産	168,148	159,057	105,71	105,71		
死	亡	112,236	108,798	103,15	103,15		
出 生	超 過	55,912	50,259		男+ 5,653		
人 口	増 加	31,875	48,216				

假定移住超過(一)

- 24,037

- 2,043

.....; 男- 21,994

之ヲ要スルニ滋賀縣ト熊本縣トハ各自其ノ特色アルニモ拘ラズカノ東京大阪北海道神奈川ノ諸地方ニ於ケル男子超過ノ著大ナルコトガ主トシテ男子來住ノ

夥シキニ因ルニ反シテ是等二縣ニ於ケル女子超過ハ男子移住ノ多キニ職由スト認ムベシ。

余ハ尙ホ試ニ右二縣ニ次ギ女子超過ヲ現スル所ノ鹿兒島、沖繩、埼玉、群馬、山梨、新潟、福井、石川ノ諸縣ヲ探テ考量シタリ其結果ハ合セ收メテ(1)表ニ在リ是等ノ諸縣ハ明治三十一年乃至大正二年ノ間ニ於テ女百ニ付男約九十六乃至九十九ノ割合ヲ示セシガ(上掲(4)表參照)其中殊ニ後ノ六縣ハ絲業地方トシテ知ラル、地方ナルガ故ニ其ノ女子超過ハ恐ラク女子ノ來住超過ニ主因スベク想像セシメザルニアラズト雖實ハ必ズシモ然ラザルナリ。

(11) 表

明治三十二年乃至同四十一年

1. 埼玉縣		男	女	女百ニ付男
生	産	204,272	196,955	103.71
死	亡	126,583	125,941	100.47
出生人口	超過増加	77,739	71,014	:男+ 6,725
移住超過(一)		- 22,190	- 17,758	:男- 7,432

新 潟 縣

		男	女	女百ニ付男
生	産	298,761	287,802	103.80
死	亡	203,991	194,124	105.08
出 生 超 過		94,770	93,678	男+ 1,092
人 口 増 加		34,275	42,339	
移 住 超 過(-)		-60,495	-51,339	男- 9,156

福 井 縣

		男	女	女百ニ付男
生	産	106,680	101,448	105.15
死	亡	69,047	73,599	93.81
出 生 超 過		37,633	27,849	男+ 9,784
人 口 増 加		3,572	5,399	
移 住 超 過(-)		-34,061	-22,450	男- 11,611

石 川 縣

		男	女	女百ニ付男
生	産	131,701	127,732	103.10
死	亡	82,035	87,718	93.52
出 生 超 過		49,666	40,014	男+ 9,652

人 口 増 加	14,197	14,633	
移 住 超 過(-)	- 85,469	- 25,381	男 - 10,088

明治三十二年乃至同四十一年

II. 群 馬 縣		男	女	女百 = 付男
生	産	158,076	150,959	104.71
死	亡	93,314	90,781	102.79
出 生 超 過		64,762	60,178	男 + 4,584
人 口 増 加		64,061	66,742	
來 住 超 過(+)		- 701	+ 6,564	{女 + 6,564
又、移住超過(-)				{男 - 701

山 梨 縣		男	女	女百 = 付男
生	産	84,320	79,816	105.64
死	亡	49,283	48,540	101.53
出 生 超 過		35,037	31,276	男 + 3,761
人 口 増 加		32,794	34,050	
來 住 超 過(+)		- 2,243	+ 2,774	{女 + 2,774
又、移住超過(-)				{男 - 2,243

III. 鹿兒島縣

		男	女	女百ニ付男
生	産	173,831	163,667	106.21
死	亡	99,573	94,237	105.66

出生超過	74,258	69,430	; 男 + 4,828
人口増加	78,168	93,077	

來住超過	3,910	23,649	; 女 + 19,739
------	-------	--------	-------------------

沖繩縣

		男	女	女百ニ付男
生	産	57,189	51,515	111.01
死	亡	42,752	39,917	107.10

出生超過	14,437	11,598	; 男 + 2,839
人口増加	18,138	23,950	

來住超過	3,701	12,352	; 女 + 8,651
------	-------	--------	------------------

(11)表ニ掲ゲタル八縣ノ數字ヲ通覽シテ先ヅ吾人ノ認メ得ル所ノモノハ——假令其間例ヘバ沖繩縣ノ如ク女百ニ付男ノ出生竝ニ死亡ノ共ニ格別ニ高キモノアリ、又福井縣竝ニ石川縣ニ於テ男子ノ死亡數ノ女子ヨリモ少ナキモノアリ各縣ノ狀況固ヨリ同様ナラザレドモ——一トシテ出生死亡ノ關係ヨリシテハ男子ノ方女子ヨリモ一層多ク人口中ニ止マルコト換言スレバ此點ヨリシテハ男子超過ヲ生ズ

ルノ傾アルコト是レナリ其ノ然ルニモ拘ラス是等ノ地方ニ於テ女子超過ヲ示ス所以ノモノハ何ゾヤ吾人ハ之ヲ求メテ三箇ノ態樣アルヲ見ル。

其一ハ即チ埼玉、新潟、福井、石川ノ四縣之ニ屬シ、亦滋賀、熊本ノ二縣ノ如ク男子モ女子モ共ニ移住超過ヲ示セドモ男子ノ方比較的多ク、其極終ニ女子超過ヲ生ズルモノ是レナリ。

其二ハ即チ群馬、山梨ノ二縣之ニ屬シ、其一ノ如ク一方ニハ男子ノ移住超過アレドモ他方ニハ女子ノ來住超過アリ二者相俟テ女子人口ヲ多カラシムルモノ是レナリ。

其三ハ即チ鹿兒島、沖縄之ニ屬シ、其一ト正反對ニ男子モ女子モ來住ノ超過アリ唯比較的女子ノ方一層多ク其結果遂ニ女子人口ノ超過ヲ生ズルニ至ルモノ是レナリ但シ果シテ此事ガ正ニ是等ノ地方ノ實狀ニ合スルカ或ハ單ニ計數上ノ架空事ニ過ザルカ余ハ今之ヲ判斷スルノ材料ヲ缺ク有識者ノ教ヲ待ツ所ナリ。

然レドモ更ニ本節ニ於テ取扱ヘル地方全體ヲ概括シテ言ヘル大體二種ニ分ツヲ得ベシ一ハ男子移住ノ多キニ主因シテ女子超過ヲ生ズル地方ニシテ他ノ一ハ

女子來住ノ多キニ職由シテ女子超過ヲ來ス所ノ地方即チ是レナリトス。

七

第三ニ男女人口數ノ殆ド常ニ相平均セル地方トシテ千葉縣ヲ探テ之ヲ觀察スルニ一方出生死亡ノ點ヨリシテハ甚ダ僅カナガラモ男子ノ方人口ニ加ハリ他方人民移動ノ點ヨリシテハ男子モ女子モ共ニ移住ノ超過アレドモ女子ノ方一層多ク人口ヨリ引キ去ラレタル有様ニシテ共ニ其數多カラズ其結果ハ唯僅カニ男子超過ノ度ヲ加ヘタレドモ敢テ男女數ノ平均ヲ著シク亂ルニ至ラザリキ。

(12) 表

明治三十二年乃至同四十一年

千葉縣		女百ニ付男	
出	生	男	女
出	生	206,776	199,069
死	七	144,484	136,929
			103.87
			105.51
出生人口	超過	出生人口	超過
43,363	62,292	39,706	62,140
			男+
			152

移住超過 -18,929 -22,434女- 3,505

女百ニ付男 明治三十一年 同 三十六年 同 四十一年 大正二年
千葉縣 100.24 100.45 100.74 100.03

八

第四ニ男子超過ノ程度ヲ遞増セントスルノ趨勢アル地方トシテ京都兵庫愛知ノ一府二縣ヲ取テ之ヲ檢察スルニ

女百ニ付男

明治三十一年

同 三十六年

同 四十一年

大正二年

京都府

一〇二・一五

一〇二・七五

一〇四・七九

一〇五・五七

兵庫縣

一〇四・二八

一〇五・二〇

一〇六・三九

一〇六・〇八

愛知縣

一〇一・一六

一〇一・七二

一〇二・六三

一〇二・九〇

(13)表ニ依リテ明カナルガ如ク三地方共ニ亦出生死亡ノ關係ヨリシテ既ニ男子超過ヲ來スベキ譯ナリ殊ニ愛知縣ヲ以テ然リトナス但シコ、ニ注意スベキハ三地方何レニ在テモ女子ノ死亡數男子ニ越エ——就中愛知縣ニ於テ爲メニ上述ノ結果ヲ齎ラスニ與カレルコト是レナリ(唯本論文ニ於テハ更ニ深ク此點ニ立入りテ論及スルハ前ニ舉タル大阪府等ノ場合ト同ジク暫ク省略ニ從ハントス)然ルニ又他方人民ノ來住ノ關係ヲ見レバ何レモ均シク男女ノ來住少カラズ而シテ京都及兵庫ニ在テハ男子ノ來住超過女子ノヨリモ優越ニシテ其結果ハ益々人口中ニ於ケル男子超過ノ度ヲ加エ愛知ニ在テハ反之女子ノ方却テ少シク優勝ニシテタメ

ニ出生死亡ノ點ヨリ生ジタル男子超過ノ程度ヲ引キ上グルノ働ヲナシタリ。

(註) 表

明治三十二年乃至同四十一年

京都府

出 生	男		女	
	159,086	153,309	103.76	
死	114,297	115,577	98.89	

出 生	44,789	37,732	男 + 7,057
人 口	87,293	70,890	

來 住	42,504	33,158	男 + 9,346
--------	--------	--------	----------------

兵庫縣

出 生	男		女	
	297,077	283,750	104.69	
死	189,497	190,084	99.69	

出 生	107,580	93,675	男 + 13,905
人 口	145,361	119,988	

來 住	37,781	26,313	男 + 11,468
--------	--------	--------	-----------------

愛知縣

出 生	男		女	
	293,160	282,629	103.72	

死	七	188,495	191,496	95,82
出生	超過	109,665	91,133	男+18,532
人口	増加	131,073	116,055	

來住	超過	21,408	24,922	女+3,514
----	----	--------	--------	--------------

是等ノ三地方ハ又言フマデモナク各々産業的大都會ヲ包容スルガ故ニ其ノ都會ノ發展ガ如上ノ趣ヲ現出スルニ與テ力アルコト吾人ノ想像ニ苦シマザル所ナリ。

九

第五ニハ前節ニ説キタルト正反對ニ男子●超過●遞減●傾向●アル地方ヲ一瞥スベシ秋田、宮城、岡山、高知ノ四縣其ノ例證タルベシ

女百ニ付男		明治三十一年	同 三十六年	同 四十一年	大正二年
秋田縣	一〇八・五八	一〇七・三七	一〇五・五五	一〇四・七七	
宮城縣	一〇五・〇一	一〇三・五五	一〇二・〇九	一〇二・三九	
岡山縣	一〇六・三九	一〇五・八四	一〇四・九〇	一〇三・〇九	
高知縣	一〇四・七七	一〇三・九九	一〇〇・七五	一〇〇・二一	

左ニ掲ゲタル(14)表ニ就キ一々解説スルノ勞ハ省クベケレドモ吾人ハ之ニ依リ

テ是等ノ四縣中高知ヲ除キ他ノ三縣ノ何レニ於テモ出生超過ノ點ヨリシテハ亦男子人口ヲ加フベキ譯ナリ唯高知ニ在テハ男子ノ出生ハ女子ヨリモ多ケレドモ其死亡亦多ク遂ニ却テ女子ノ方一層多ク人口ニ止マルコト、ナレリ但シ其數ハ至テ僅カナリ然ルニ又他方人口移動ノ關係ヲ見レバ四縣何レニ於テモ男子ノ移住少ナカラズ其極終ニ男子超過減退ノ傾向ヲ馴致スルモノ、如シ加フルニ又秋田及ビ殊ニ岡山ニ在テハ女子ノ來住ヲ以テ一層此傾向ヲ強メタリ而シテ若シ尙ホ此勢ヲ持續センカ是等ノ地方ハヤガテハ女子超過縣ト推移シ了スベキナリ。

(14) 表

明治三十二年乃至同四十一年

秋 田 縣

男 女 女百ニ付男

生	148,186	188,071	107.82
死	85,866	78,900	108.82

出生超過	62,320	59,171	男+ 3,149
人口増加	51,730	59,791	

來住超過(+)	-10,590	+	620	{男-10,590
又ハ移住超過(-)				女+ 620}

宮 城 縣

		男	女	女百=付男
生	産	146,723	139,298	105.33
死	亡	88,703	82,115	108.02
出 生 超 過		58,020	57,183	男+ 837
人 口 増 加		15,274	26,881	
移 住 超 過		-42,746	-30,302	男-12,444

岡 山 縣

		男	女	女百=付男
生	産	170,915	160,578	106.43
死	亡	120,628	116,927	103.16
出 生 超 過		50,287	43,651	男+ 6,636
人 口 増 加		40,725	46,656	
來 住 超 過		- 9,562	+ 3,005	{男- 9,562 女+ 3,005

高 知 縣

		男	女	女百=付男
生	産	96,463	91,510	105.41
死	亡	65,269	59,594	109.52

出生超過	31,194	31,916	女 + 722
人口増加	17,974	29,986	

移住超過 - 13,220 - 1,930男 - 11,290

一〇

是ニ於テ乎第六ニ吾人ハ男子超過ヨリ女子超過ニ向テ常ニ轉移セル地方トシテ福島、鳥取、佐賀ノ諸縣ノ數字ヲ採リ之ヲ查察センニ

女百ニ付男

明治三十一年

同 三十六年

同 四十一年

大正二年

福島縣	一〇二・三八	一〇一・八七	一〇〇・二〇	九九・五七
鳥取縣	一〇一・六七	一〇〇・四〇	九八・一一	九八・九二
佐賀縣	一〇一・三三	九九・七七	九九・二二	九八・二二

(15) 表ノ示スガ如ク主因ハ即チ男子ノ移住ノ女子ヨリモ一層多キニ在リ唯佐賀縣ニ於テ出生死亡ノ關係ヨリシテモ尙ホ之ニ加ヘテ女子超過ヲ生ズルニ至ラシメタルヲ見ル之ヲ要スルニ吾人ハ前節ニ述タル所ト合セテ茲ニ我全國ニ於ケル女子超過地方漸増ノ傾向ヲ解釋スルノ管鍵ヲ得タルノ感アルナリ。

明治三十二年乃至同四十一年

福 島 縣

		男	女	女百 = 付男
生	産	189,914	179,751	105.65
死	亡	111,869	105,110	106.43
出 生 超 過		78,045	74,641	男 + 3,404
人 口 増 加		62,296	73,983	
移 住 超 過		- 15,749	- 658	男 - 15,091

鳥 取 縣

		男	女	女百 = 付男
生	産	59,539	56,138	105.73
死	亡	38,691	36,444	106.16
出 生 超 過		20,668	19,694	男 + 974
人 口 増 加		6,207	13,915	
移 住 超 過		- 14,461	- 5,779	男 - 8,682

佐 賀 縣

		男	女	女百 = 付男
生	産	104,859	100,321	104.52
死	亡	63,520	58,423	108.72
出 生 超 過		41,339	41,898	女 + 559
人 口 増 加		22,890	29,962	
移 住 超 過		- 18,449	- 11,936	男 - 6,512

第七ニ明治三十一年乃至大正二年ノ期間ニ於テ男女人口ノ關係的數字ニ變動太ダ少ナカリシ地方トシテ富山、岐阜、靜岡ノ三縣ヲ查覈スルニ

女百ニ付男

明治三十一年

同 三十六年

同 四十一年

大正二年

富山縣

一〇一・六七

一〇一・七九

一〇一・三六

一〇一・一一

岐阜縣

一〇二・七一

一〇三・〇七

一〇二・三三

一〇二・五〇

靜岡縣

一〇二・二五

一〇一・八四

一〇一・三八

一〇一・六八

(16)表ニ依テ容易ニ了解シ得ルガ如ク三地方亦特色アレドモ要スルニ一方ニ出生死亡ノ關係ヨリ豫期シ得ベキ男子超過ノ増進ハ他方ニ人民來住ノ關係ヨリ生ズル數ノタメニ相殺セラレテ依然從前ト大差ナキ趣ヲ呈スルナリ。

(16)表

明治三十二年乃至同四十一年

富山縣

男

女

女百ニ付男

生

産

140,890

134,685

104,60

死

七

81,060

87,645

92,48

出生人口

超過

59,830

47,040

………男+12,730

人口

増加

1,548

2,710

移住

超過

- 58,282

- 44,330

………男-13,952

岐阜縣

生	男	女	女百ニ付男
産	168,630	161,684	104.29
死	104,841	108,646	96.49

出生人口	63,789	53,038	男+10,751
増加	26,015	27,219	

移住超過	-37,774	-25,819	男-11,855
------	---------	---------	---------------

静岡縣

生	男	女	女百ニ付男
産	220,332	210,324	104.75
死	126,552	122,922	102.95

出生人口	93,780	87,402	男+6,378
増加	85,861	89,865	

來住超過(+)	-7,919	+2,463	男-7,919
又ハ移住超過(-)			女+2,463

一一一

以上ヲ以テ余ハ前ニ舉ゲタル特徴的地方ニ關シ大略ノ觀察ヲ終ヘタリ但シ余ハ尙ホ進ンデ此問題ニ重大ノ關係アル都會殊ニ大都會ノ人口ニ就キ一應考查ヲ費ヤスベキ豫定ニテ既ニ幾分材料ヲ整理シタルドモ現下利用シ得ベキ材料ヲ以テハ前同様ノ計算ヲ試ミ難キ點アルト且近日日本邦ノ大都會人口問題ハ別ニ之ヲ

纏メテ論述スルノ心算ナルガ故ニコ、ニハ暫ク全然放擲スルコト、セリ讀者ノ
諒恕ヲ乞フ所ナリ。

一三

上來説明シタル所ヲ總括シテ考察スルトキハ本邦人口中ニ於ケル男女ノ數的
關係ノ上ニ如何ニ出生死亡及來住ノ原因ガ働キツ、アルカラ知了スルヲ得ベシ
我全人口中ニ於テ男子超過ヲ示スハ主トシテ其原因男女各自ノ出生死亡ノ關係
ヨリ來ル又此關係ハ各府縣ノ人口ニ對シテモ概テ同一ノ趣ヲ以テ勿論程度ニ
ハ大小ノ差アレドモ働キツ、アリ然リト雖各府縣ノ人口中ニ於ル男女割合ノ
相違ノ上ニハ男女各自ノ來往ノ關係一層有力ニ影響ヲ及ボシツ、アルモノト認
メ得ベシ殊ニ強力ナルハ男子ノ側ニ於ケル來住移住ノ盛ナルコトナリ但シ是等
ノ移動タルヤ尙ホ寧ロ地方的ニシテ未ダ國內的又況ヤ國際的タルモノ盛ナラザ
ルモノ、如シ將來此點ニ於ケル著シキ變化アラバ我全國及各地方ノ男女人口分
布上ニモ亦大ナル變動ヲ生ズベシ若シ夫レ出生死亡ノ關係ニ至リテモ男女兩性
ノ出生死亡殊ニ女子死亡ノ狀態ノ轉移ニ伴ヒ亦其影響ヲ現出スベシ吾人ハ本研
究ノ結果ニ願ミ興味ヲ以テ將來ノ推移ヲ觀望セザルヲ得ザルナリ。(完)